

提言に向けての主な論点について

目指す姿1 新たな人の流れの創出

項 目	検討に当たっての論点 第1回部会における意見
1 首都圏等からの移住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏等在住者に対する秋田暮らしの魅力のアピール ・ 多様化する移住ニーズに寄り添った受入支援 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方の変化やデジタル化等について行けない高齢者等にも効果的な取組を講じるべきである。 ・ 移住・定住するためには生活していかなければいけないので、仕事を併せて考える必要があるのではないか。 ・ 出産・育児は移住を考えるきっかけになるため、都会での子育てに不安を抱えている方に対して、秋田県の子育てのしやすさや教育のよさ等を伝えればよいのではないか。 ・ 他県等との競争に勝つためには、他県等にないものや秋田県の強みを伸ばしていくべきではないか。 ・ 県外から秋田県に帰ってきた際、山や海など、自然を求めるときにすぐ身近にあることは素晴らしいことだと強く思ったので、人を呼び込むポイントになるのではないか。 ・ 転入者から秋田県のよさやいいイメージを聞き取ることが重要ではないか。 ・ 移住促進の取組は大変な上に効果がわかりにくいのが、費用が効果に見合っているのかを考える必要があるのではないか。
2 人材誘致の推進と関係人口の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事や地域づくりを通じた人材の誘致と関係人口の拡大 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークーションは非常にライバルが多く、ちょっとしたことをやれば勝てる市場ではなくなっている。 ・ ちょっとやそっとのことでは勝ち目のない市場にかけるお金があるのであれば、思い切って違う方向に向かうという

	<p>判断も必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーションは、圧倒的にバケーションの部分が強くなければ、そもそも人は来ないため、北海道、沖縄、海外等にも勝てるほどにバケーションで強くならなければ難しいのではないか。 ・県外の人には、秋田県は教育がいいというイメージがあるため、勝ち目がありそうな教育留学に力を入れるべきではないか。 ・秋田県は保育の環境が豊かであるため、バケーションしながら保育園に体験入園できるというのもいいのではないか。 ・人が住むことで地域が豊かになるので、人と地域のマッチングに繋がる取組をするべきではないか。
<p>3 若者の県内定着・回帰の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が秋田暮らしや県内企業の魅力に触れる機会の提供・県内就職に向けた支援 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしやすい社会をつくるのが、定着・回帰にもつながるのではないか。 ・秋田県のよさを地元の人に改めて知ってもらい、それを自慢や誇りにすることが、秋田県で生きていくことの楽しさとなり、定着につながるのではないか。 ・県民は「秋田には何もない」が口癖であるが、秋田には豊かな自然、資源、文化、他県を凌ぐ再生可能エネルギーのポテンシャルがあるので、これを再認識させることで、県内定着につなげるべきである。 ・ワーケーションは、県外の人だけでなく、県内の人も対象にすることで、秋田県のよさを再認識する機会が増えるのではないか。 ・若者は企業情報をもっと欲しいと要望する一方で、就職情報サイトやサービスがあっても受け身の態勢であることから、SNS等を活用した高校生や大学生等、(県出身者で)県外に就職した方向けの就職情報発信が必要ではないか。

目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現

項目	検討に当たっての論点 ----- 第1回部会における意見
1 結婚・出産・子育てを前向きに捉える気運の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が結婚・出産・子育てを学び考える機会の提供 ・社会全体で結婚・出産・子育てを応援する環境づくり
2 出会い・結婚への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いの機会の提供など結婚につながる支援
3 安心して出産できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・出産について夫婦が抱える不安や悩みの解消
4 安心して子育てできる体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに対応した保育サービス等の充実 ・仕事と子育てを両立できる環境づくり <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・授乳や看護の休暇、早番・遅番の免除など、育児中の親が柔軟に働ける環境をつくる必要があるのではないか。 ・女性のみならず、男性が子育てしやすい職場環境づくりが必要ではないか。 ・多胎児、発達障害、アレルギーなど、子育ての悩みには多くのパターンがあるため、できるだけ多くの悩みに対応できるように支援するべきではないか。 ・子育て支援のイベントに行きたくても行けない親もたくさんいるので、参加しやすいイベントのあり方を検討するべきではないか。 ・子育ての悩みは、同じ立場の人と共感することで救われるので、そうした観点でイベントの開催やサークルの支援をするべきではないか。 ・特定の悩みを支援する子育てサークルは、必要とする人はいるが人数が少なく、運営が大変であるため、こうしたサークルを支援することが多様性の面からも重要なのではないか。

目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現

項目	検討に当たっての論点 ----- 第1回部会における意見
1 男女共同参画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定的な性別役割分担意識の解消 ・ 男女共同参画社会の基盤づくり ----- <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田県には、性別による役割意識が強く残っているので、解消しなければならないのではないか。 ・ 性別に関する意識改革のためには、ワークショップなどによる交流の時間や、みんなで学ぶ機会をつくるべきではないか。
2 あらゆる分野における女性の活躍の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域や職場で女性が活躍し続けられる環境づくり ----- <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性の活躍にとって必要な女性自身の意識改革が進んでいないが、県の取組を理解してもらうことが重要ではないか。 ・ 女性が活躍するためには、子育てのしやすい環境をつくる必要があるのではないか。
3 若者のチャレンジへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の意欲や斬新なアイデアに対する支援 -----

目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築

項 目	検討に当たっての論点 ----- 第1回部会における意見
1 優しさと多様性に満ちた秋田づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 差別等の解消 ・ S D G s の達成に向けた気運の醸成 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性への理解を進めるためには、子どもへの教育が重要なのではないか。 ・ 性別、年齢、障害など、各分野ごとに思いやりを持たなければならないポイントがあると思うので、専門家の意見をもとに、県民が気付かないポイントを知る機会をつくるべきではないか。 ・ 多様性の教育の一環として、子ども達へ副読本を配布すればいいのではないか。 ・ 多様性を理解してもらうのは、本当に時間がかかることであるので、やめずに継続していくことが重要ではないか。 ・ 人口減少下においては、人種や障害など、さまざまな方と触れ合う機会が減ってしまうので、そうした機会を確保するべきではないか。
2 地域住民が主体となった地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民による地域課題解決に向けた主体的な取組の促進 ・ 地域コミュニティの維持・活性化 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
3 多様な主体による協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けた多様な主体による分野を超えた連携 ・ あらゆる世代の地域活動への参加の促進 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>
4 持続可能でコンパクトなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地の拡散と「まちなか」の空洞化の抑制 ・ まちの再生やにぎわいの創出 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>

目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成

項目	検討に当たっての論点 ----- 第1回部会における意見
1 脱炭素化に向けた 県民運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策を「自分ごと」として行動する気運の醸成 ・省エネルギー・省資源を基調としたライフスタイルへの変革 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・環境活動については、高校生の知識が豊富であるが、やはり教育は重要であると考えられる。 ・身近なところで、できることをやっていくことが重要ではないか。 ・ごみ拾いしながらのランニングのように、環境活動にプラスアルファで興味がわくようなイベント等を組み合わせることで、入口が広がるのではないか。 ・建築士の意識向上や知識習得を支援することで、建築業界における脱炭素化の取組が進むのではないか。 ・脱炭素化への寄与度を考えれば、産業界が先に取り組むべきであって、個人レベルの取組を推進するためには、産業界の取組状況を示す必要があるのではないか。
2 持続可能な資源循環の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての主体が連携し、地域特性に応じた環境と経済が好循環する“3R”の仕組みづくり <hr/>

目指す姿6 行政サービスの向上

項目	検討に当たっての論点 ----- 第1回部会における意見
1 デジタル・ガバメントの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の利便性の向上に向けた行政のデジタル化 ----- ・ GIS（地理情報システム）の導入等、Web上で土地利用の詳細情報を取得できるようにしてほしい。 ・ 電子申請はだいぶ普及しているが、申請以外の事務手続もWeb上からできるようなシステムを充実していけばいいのではないか。 ・ Web上のサービスが充実すれば、県内の事業者のみならず、秋田県で事業を展開しようとしている県外事業者にとっても有益なのではないか。 ・ 高齢者にも簡単で、わかりやすく、使いやすいWebサイトとしてほしい。 ・ 行政サービスの利便性向上のため、デジタル化を推進することが期待される。その一方で、デジタル化に慣れていない県民をフォローする観点も重要ではないか。
2 県・市町村間の協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県と市町村の適切な役割分担による事務事業の効果的な実施や行政コストの削減等 ----- ・ 誰もが衛生的に生活できることは大切なことであるため、生活排水処理サービスの改善を進めてほしい。